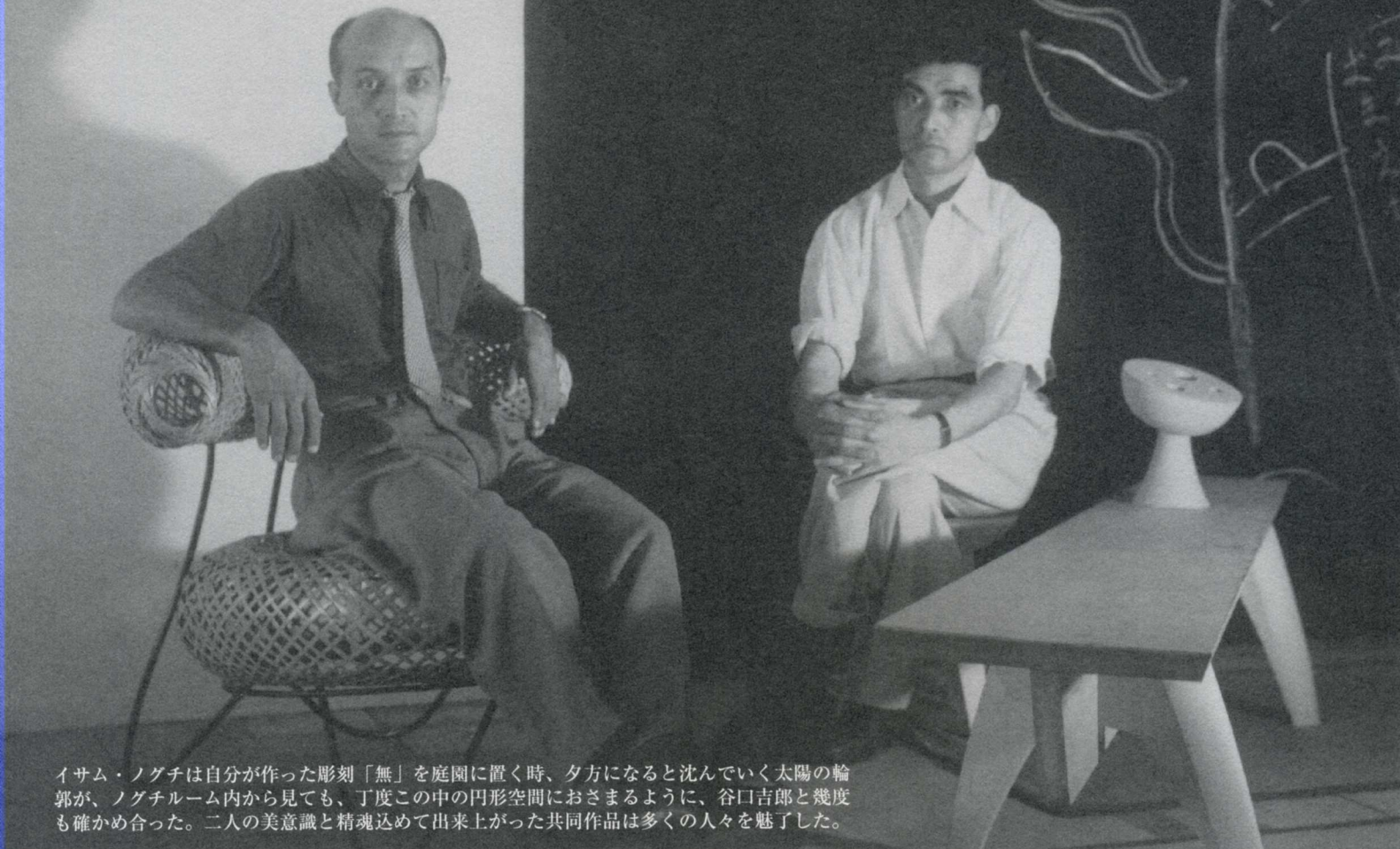


コラボレートの傑作萬来舎

1951年、東京・三田、慶応大学キャンパス内につくられた「萬来舎・談話室」は、わが国はじめての建築家と彫刻家がコラボレートした空間である。建築家は谷口吉郎、彫刻家はイサム・ノグチ。二重奏の妙なる流れは、対峙しながら高まりを見せ、静謐でありながら親しみ易く、しかもキリッとした雰囲気をたたえていた。しかし、いまはない。取り壊し直前の写真がその面影を伝えるのみである。すぐれた文化財は、所有者だけのものではないことを改めて感じさせる。

馬場璋造（建築情報システム研究所所長）



イサム・ノグチは自分が作った彫刻「無」を庭園に置く時、夕方になると沈んでいく太陽の輪郭が、ノグチルーム内から見ても、丁度この中の円形空間におさまるように、谷口吉郎と幾度も確かめ合った。二人の美意識と精魂込めて出来上がった共同作品は多くの人々を魅了した。

イサム・ノグチと谷口吉郎（三越の展覧会場にて）1950年 撮影：渡邊義雄

◆イサム・ノグチ（左）1904年ロサンゼルス生まれ

日系米国人彫刻家。抽象彫刻のみならず、肖像彫刻、舞台美術などを手掛け、ランドスケープデザインや、陶器、照明器具の「あかり」など幅広い活動をしてきた。父親、野口米次郎は慶応義塾で教授を務めていた詩人。代表作に、パリのユネスコ本部庭園、東京の草月会館ロビー、「スライド・マントラ」、モエレ沼公園など。1988年ニューヨークにて死去。

◆谷口吉郎（右）1904年金沢市生まれ

建築家。東京帝国大学工学部建築学科卒業。文化財審議委員を務め博物館明治村の設立に尽くし初代明治村館長。1962年日本芸術院会員。1973年文化勲章授章。主な建築作品は藤村記念堂、東宮御所、東京国立博物館東洋館、東京国立近代美術館、ホテルオークラ、帝国劇場など多数。文学碑の設計や著書も多い。主なる著作は「雪明かり日記」、「清らかな意匠」。1979年死去。

イサム・ノグチ彫刻作品「無」

外観

ホール

